支援員養成講座5

発達障害と合理的配慮

学年に応じた配慮①

1

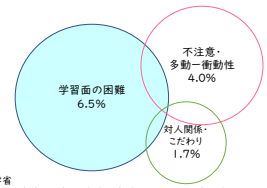
1. 発達障害と合理的配慮

2. 学年に応じた配慮

2

子どもの実態

通常学級に在籍し、学習面・行動面に困難を示す子ども **8.8%**



文部科学省
通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査より(2022)

3

学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒 **8.8%**

その学年別集計表

	小学校						中学校		
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
困難を示す割合	12.0%	12.4%	11.0%	9.8%	8.6%	8.9%	6.2%	6.3%	4.2%
	10.4%						5.6%		

文部科学省 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査

4

主な発達障害

5

主な発達障害

6

学習障害(LD)の特徴

読み間違いが多い。

字形がくずれている。

読みつまりが多い。

漢字の間違いが多い。

読むのに時間がかかる。

特定の教科に苦手さがみられる。

学習の基本となる「読む」「書く」が苦手

7

低学年における困難の特徴

勝手読み・逐次読みが多い

文章の意味内容が分からない

ひらがなやカタカナの書字に時間がかかる

板書についていくことができない

文字は形の均整がとれていないために読みにくい

自分の字が読めないために復習ができない
周囲から注意されるため書字を嫌がるようになる

授業のユニバーサルデザイン研究会(監修) 東洋館出版 授業のユニバーサルデザインを目指す 全時間指導ガイド

8

中学年における困難の特徴

指名されても音読を嫌がる

読むことへの苦手意識が高まる

文字が流暢に読めないため、読書を好まない

語彙獲得に影響が生じる可能性も

文字だけの情報では理解が難しい

次第に分からないことを発信しなくなるため、
学習の困難さが見えづらくなる

授業のユニバーサルデザイン研究会(監修) 東洋館出版 授業のユニバーサルデザインを目指す 全時間指導ガイド

9

高学年における困難の特徴

文章を流暢に読めないため、テストの評価が低くなる

学習性無力感につながる可能性

自信喪失傾向にある

自己肯定感の低下

授業中はいつも受け身である

学習の困難さが見えづらくなる

授業のユニバーサルデザイン研究会(監修) 東洋館出版 授業のユニバーサルデザインを目指す 全時間指導ガイド

10

学年に応じた配慮・・・低学年では

読みの補償
分かち書き、
読み上げ教科書の活用
読みつかえやすい単語の取り出し練習など

書きの補償
穴埋めシートなどを活用し書く量を調整

11

学年に応じた配慮・・・中高学年では

子ども自身の経験と合わせて説明する

タブレット端末の活用

細かい目標を設定して達成後には褒める

国立特別支援教育総合研究所「合理的配慮」実践事例データベース

12